

岩手県文化財調査報告書第70集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

XV—1

(江釣子村鳩岡崎遺跡 遺構編)

昭和57年3月

岩手県教育委員会
日本道路公団

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

XV—1

(江釣子村鳩岡崎遺跡 遺構編)

序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的な要請であり、本県においても、このような建設事業が多く計画・実施されております。

これらの開発事業に関連して、私たちには、先人が長い歴史の中で培いはぐくんできた貴重な文化遺産を保護し、新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて建設される東北縦貫自動車道は、産業・経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、宮城県境より西根インターまでは、すでに供用され、現在は更に秋田・青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年度から7か年にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4か年計画で実施して参りました。本年度は、その最終年度にあたります。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第XV冊目として、和賀郡江釣子村の鳩岡崎遺跡について、調査結果をとりまとめたものであります。

調査の結果、縄文時代（前期末～中期初）と、古代（奈良～平安）の集落跡等が重複して検出されました。中でも縄文時代の集落跡からは、280基をこえる土壇群や、一般住居跡にまじって特殊な大型住居跡が検出されるなど、膨大な伴出遺物とあいまって、縄文集落の解明上、多くの貴重な資料を提示いたしております。

この報告書が、研究者のみならず、広く一般のかたがたに活用され、埋蔵文化財に対する理解が一段と深められるよう願ってやみません。

ここに、調査について御援助・御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し心から感謝申し上げます。

昭和57年3月

岩手県教育委員会

教育長 新 里 盈

例 言

1. 本書は東北自動車道関係遺跡発掘調査報告書第 XV 分冊として、江釣子村所在の鳩岡崎遺跡について作成したものである。XV - 1 を遺構編、XV - 2 を遺物・要約・分析鑑定結果編とした。調査は48年度から51年度に実施されたものである。

2. 調査および整理あたって、次の方々と機関の指導、教示を得た（敬称略・順不同）。

田中喜多美（県文化財保護審議委員）	板橋 源（県文化財保護審議委員）
草間 俊一（同上・岩手大学）	伊東 信雄（東北学院大学）
芹沢 長介（東北大学）	林 謙作（北海道大学）
工藤 雅樹（宮城学院大学）	桑原 滋郎（国立歴史民族博物館）
須藤 隆（東北大学）	沼山源喜治（北上市史編さん室）
清水 芳裕（京都大学）	伊藤 鉄夫（水沢市）
進藤 秋輝（宮城県多賀城跡調査研究所）	白鳥 良一（宮城県多賀城跡調査研究所）
加藤 道夫（宮城県文化財保護課）	円羽 茂（宮城県文化財保護課）
小井川和夫（ 同 上 ）	藤沼 邦彦（東北歴史資料館）
高橋 信雄（岩手県立博物館）	高橋与右衛門（財岩手県埋蔵文化財センター）
鈴鹿 良一（福島県文化センター）	四井 謙吉（ 同 上 ）
	八木 光則（盛岡市教育委員会）
高橋 文明（江釣子村教育委員会）	佐久間 豊
北上市教育委員会	北上市立博物館
江釣子村教育委員会	宮城県文化財保護課
東北大学文学部考古学研究室	福島県文化センター
財岩手県埋蔵文化財センター	東北歴史資料館
岩手県立博物館	

3. 資料の分析・同定は、次の方々と機関に依頼した（敬称略・順不同）。

石材・産出地同定・地形区分、佐藤二郎（岩手県立大船渡農業高等学校）
種実同定 村井三郎（岩手県文化財審議委員）
土器胎土分析 照井一明（岩手県立種市高等学校）
炭化材樹種同定 早坂松次郎（岩手県木炭協会）
年代測定 日本アイソトープ協会
土器胎土分析（蛍光X線分析） 岩手県工業試験場・岩手県立博物館

4. 本書に用いた地形図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図、20万分の1地形勢図

である。

5. グリッド配置図は、日本道路公団作成による「TOHOKU EXPRESS WAY PLAN」を用い、遺跡・遺構等の方位表示は同図の第10系座標系の北方向である。

6. 遺跡における層相と土器の色調観察は、小山、竹原編著「新版 標準土色帖」日本色研事業㈱を用いた。

7. 遺物・写真・実測図等は、岩手県教育会事務局文化課において保管している。

8. 調査主体 岩手県教育委員会 日本道路公団

9. 調査担当者 岩手県教育委員会文化課

10. 発掘調査・整理・執筆担当

調査員 高橋文夫 吉田 努 佐藤和男 千葉周秋 中川重紀 佐伯研二 中村清也

菊池郁雄 三上 昭 阿部省吾 高村嘉夫 高橋義介 藤井敏明 (当該年度の実測報告書・略報に
た)

以上の他に短期間の調査員として以下が参加した。

斉藤 淳 高橋信雄 伊藤博幸 佐藤 勝 高橋与右衛門 相原康二 岩手大学学
生諸氏

整理担当者 ①土器復元・拓影図作成・石器トレース 伊藤ふく 前川みどり 真田和子

細矢節子 吉田和子 小山田裕子 漆原悦子 菊池純子 秋葉良子 佐々木智子

堀間好子 阿部由美 佐久間 豊

②土器実測・トレース 鈴木優子 小西エイ子 後藤恵美子 桑原 匡 安藤敏樹

③石器実測・拓影図作成 小林史子 小林三千江 石田千鶴子 佐々木るい子

田村壮一

④遺物撮影 桜井芳彦

⑤遺構トレース 石川長喜・相原康二

⑥記述・編集 石器製作址・近世墳墓。石川長喜、その他 相原康二・鈴木優子

本書に掲げた実測図は、概ね50分の1に統一している。なお図中のグリッド名・座標名も縮尺読み取りの手掛りとなしうるのであろう。

目 次

<p>第1部 遺跡周辺の歴史的環境… 3～5</p> <p>第2部 調査の結果</p> <p style="padding-left: 20px;">1 遺跡の位置と立地… 7～8</p> <p style="padding-left: 20px;">2 遺跡の層序と土質… 8～12</p> <p style="padding-left: 20px;">3 発見された遺構… 13～</p> <p>(A) 縄文時代</p> <p style="padding-left: 20px;">(a) 堅穴住居跡… 13～44</p> <p style="padding-left: 20px;">(b) 諸ピット類… 45～207</p> <p style="padding-left: 20px;">(c) 遺物包含層… 207</p>	<p style="padding-left: 20px;">(d) 石器製造跡… 208</p> <p>(B) 古代</p> <p style="padding-left: 20px;">(a) 堅穴住居跡… 212～242</p> <p style="padding-left: 20px;">(b) ピット類… 244～247</p> <p>(C) 近世以降… 248～257</p> <p>第3部 分析・鑑定結果</p> <p style="padding-left: 20px;">和賀川流域の地形に ついて… 259～265</p>
---	--

写 真 図 版 目 次

<p>調査地周辺の航空写真… 図版 1</p> <p>CJ24 住居跡・DE18 住居跡他</p> <p style="padding-left: 20px;">全景… 図版 2</p> <p>CG15 住居跡… 図版 3</p> <p>CJ24 住・CI21 住・CJ27</p> <p style="padding-left: 20px;">住居跡全景… 図版 4</p> <p>CJ24 住(1)… 図版 5</p> <p>CJ24 住(2)… 図版 6</p> <p>CI21・CJ27・DJ68・EH50 住、</p> <p style="padding-left: 20px;">DJ53 炉跡… 図版 7</p> <p>DE18 住全景(1)… 図版 8</p> <p>DE18 住全景(2)… 図版 9</p> <p>DE18 住全景(3)… 図版 10</p> <p>EC62・EC68・EG24・DI12 住… 図版 11</p> <p>CA56p.1、CB53p.1・2、</p> <p style="padding-left: 20px;">CB56p.1・2… 図版 12</p> <p>CB56p.3、CB59p.1・2、CC59p.1、</p> <p style="padding-left: 20px;">CC62p.1、CC65p.1… 図版 13</p> <p>CC65p.2・3・4、CD59p.1・2、</p> <p style="padding-left: 20px;">CD62p.1・2・3・4、CD56p.1… 図版 14</p> <p>CD65p.2、CE59p.1・2、CE62p.1・2、</p> <p style="padding-left: 20px;">CF59p.1・2、CF62p.1… 図版 15</p> <p>CF56p.2、CF62p.3、CB18f.p.、</p>	<p style="padding-left: 20px;">CD15f.p.、CD18f.p. … 図版 16</p> <p>CI21f.p.1・2、CI24f.p.1・2、CI27f.p.1、</p> <p style="padding-left: 20px;">CI30f.p.、CJ24p. … 図版 17</p> <p>CI27f.p.2、CJ30f.p. … 図版 18</p> <p>DA15f.p.、DA24f.p.、DB12f.p.1・2、</p> <p style="padding-left: 20px;">DB15f.p.、DB18f.p. … 図版 19</p> <p>DB21f.p.、DB24f.p.、DB30f.p.、</p> <p style="padding-left: 20px;">DD15f.p. … 図版 20</p> <p>DH06f.p.、DH15f.p.1・3、DH24f.p.、</p> <p style="padding-left: 20px;">DH50f.p.、DJ50p. … 図版 21</p> <p>DI03f.p.、DI06p.、DI09p.、</p> <p style="padding-left: 20px;">DI62f.p. … 図版 22</p> <p>DI65p.1、DI62p.2、DJ09f.p.、</p> <p style="padding-left: 20px;">DJ12f.p.、DJ50p.1・2、EA09p. … 図版 23</p> <p>DJ59f.p.、DJ68p.、FA62p.1、</p> <p style="padding-left: 20px;">FA68p.2、FA71p.1・2 … 図版 24</p> <p>EA03p.1・2、EA03f.p.3、</p> <p style="padding-left: 20px;">EB06f.p. … 図版 25</p> <p>EA15f.p.1・2、EA18f.p.、EA21f.p.、</p> <p style="padding-left: 20px;">EA50f.p.1・2… 図版 26</p> <p>EA59f.p.、EA62p.、EA65p.2、</p> <p style="padding-left: 20px;">EA68f.p.、EB62f.p.、EB59f.p. … 図版 27</p> <p>EB03f.p.、EB09f.p.1・2… 図版 28</p>
--	---

EB12f.p.、EB15f.p.、EB15p.、	
EB18f.p. ……………	図版29
EB21f.p.、EBf.p.1・2、EC21f.p. ……	図版30
EB53f.p.2、EC56p.1、EC06f.p.1・	
f.p.3、EC12f.p.1・2 ……………	図版31
EC03f.p.1・2、p.3、EC50f.p.1・p.2、	
ED03f.p.1 ……………	図版32
EC15p.1、EC18f.p.1、EC53f.p.2 ……	図版33
EC53f.p.1、EC56f.p.1・2、EC56p.、	
ED56f.p.2・3 ……………	図版34
EC56f.p.1・2、EC68p.1、EC71p.1・1'、	
ED59f.p.1、ED59f.p.2・3 ……………	図版35
EC62f.p.1、ED15p.1・3・4 ……………	図版36
ED18f.p.、EE15f.p.1、EE18f.p.1、	
ED27f.p.1、ED27p.2 ……………	図版37
ED53f.p.1・2、ED56f.p.3 ……………	図版38
ED68p.、ED71p.、EC27p.1、	
EE03f.p.2 ……………	図版39
EE03p.1、EE12p.1、EF12f.p. ……	図版40
EE21p.、EE21p.1・2、EE24p.1・2・3、	
EE27p.、EF27f.p. ……………	図版41
EE50f.p.1、EE53f.p.2、EE59f.p.3、	
EE59p.2 ……………	図版42
EE59f.p.4、EE62f.p.1、EE65p.1、	
EE65f.p.2 ……………	図版43
EE62f.p.2、EE65p.3、EE68f.p.4、	
EE71f.p.2 ……………	図版44
EE68f.p.1・3 ……………	図版45
EE71f.p.3、EE74f.p.、EF03f.p.2、	
EF06p.、EF09f.p.、EF71f.p.1 ……	図版46
EF15p.1、EF18p.1、EF24p.1、	
EF24f.p.1、EF27p.1 ……………	図版47
EF12p.、EF15p.、EF50p.、EF65p.1、EF74f.	
p.1・3、EG03f.p.2、EG06f.p.1 ……	図版48
EG09f.p.4(仮3)、EG09p.5(仮10)、EG09p.	
1(仮7)、EG09p.2(仮6)、EG09p.3(仮	
8)、EG09p.3(仮9) ……………	図版49
EH12p.1・2(仮1)、EG12p.1(仮2)、	
EG21p.、EG27p.1 ……………	図版50
EG62f.p.、EG65p.、EG68p.、	
EG71p.、EH65p. ……………	図版51
EG50f.p.、EG53f.p.、EG56p.1・2 ……	図版52
EG71f.p.1、EG06p.2、EH03p.、	
EH03f.p.1、EH06f.p.1 ……………	図版53
EH06f.p.2、EH09p.、EH21p.、EH50p.、	
EH68f.p.1、EH71f.p.1 ……………	図版54
EH53f.p.1、EH59p.、EH56f.p.1、	
EH62f.p.1、EH65f.p.1 ……………	図版55
EH65f.p.2、EH71f.p.2、EH74f.p.、	
EI03f.p. ……………	図版56
EI06p.、EI24p.、EI53f.p.1、EI50f.p.1、	
EI59f.p.2 ……………	図版57
EI59、EI53f.p.1、EJ53p.2、EI62f.p.2、EI65f.	
p.、EJ59f.p.、EJ65f.p. ……………	図版58
EI50p.2、EJ68p.、EJ71p.、EC27f.p.3、	
EC24p.1、ED24p.2 ……………	図版59
CJ12・DA24・DD18 住居跡 ……	図版60
DG24・DH18 住居跡 ……………	図版61
DJ21・DJ27・DJ50 住居跡 ……	図版62
EA12 住居跡 ……………	図版63
EA21 住居跡 ……………	図版64
EC56・ED27 住居跡 ……………	図版65
EE50・EI62 住居跡 ……………	図版66
近世墳墓全景 ……………	図版67
近世墳墓周溝 ……………	図版68
近世墳墓配石 ……………	図版69
近世墳墓配石 ……………	図版70
近世墳墓遺物出土状況 ……	図版71
溝状遺構・石器製作址 ……	図版72

序 文

1 経 過

岩手県の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化された。これによって破壊される埋蔵文化財の取り扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書により、岩手県教育委員会がおこなうことになった。まず、一関・盛岡間の路線予定地内の分布調査が、昭和42年～43年に実施され、昭和45年2月19日水沢・花巻間40km、同年11月25日一関・胆沢間30km、46年2月10日石鳥谷・盛岡間29kmの路線発表がなされたことに伴い、昭和47年8月～9月に、用地巾50mで現地確認調査、同年10月インターチェンジ及び付帯施設予定地内の現地確認調査等が順次実施され、一関・盛岡間の調査対象遺跡は当初82ヶ所確認された。これらの遺跡についての事前調査は、昭和47年度に北上市・花巻市・金ヶ崎町所在の遺跡から調査が開始され、用地買収、着工順位に従って順次すすめられた。

この間、調査除外としたものは一関市苅又遺跡・一関市松の木遺跡・衣川村櫛形陣場跡・衣川村二枚貝化石層の4ヶ所である。

また、平泉町伝護摩堂跡は跡線変更によって保存された。一方、工事直前もしくは工事中に新しく確認追加されたものに、土取場の和賀町梅ノ木Ⅰ～Ⅶ遺跡、路線内では江釣子村下谷地B遺跡・紫波町墳館遺跡および柳田館遺跡・衣川村東裏遺跡がある。

昭和49年6月20日、盛岡・安代間53kmの路線発表があり、この区間のうち、盛岡・西根（松川まで）間が調査対象の日程にくりこまれ、当初、8遺跡が確認されたが、工事中に滝沢村卯遠坂遺跡が発見追加され、更に紫波インターチェンジの誘到新設に関連し、栗田Ⅰ～Ⅲ遺跡が調査対象となった。

以上の経過を経て、最終的には一関・西根（松川まで）区間の調査対象遺跡数は第一表のような99遺跡、18市町村におよぶものとなった。

調査をすすめる一方、文化庁、日本道路公団との協議によって、前述の伝護摩堂跡を完全保存したのをはじめ、本遺跡のCJ24住居跡の一部分、水沢市石田遺跡の奈良時代末から平安時代初期に相当する焼失家屋1棟、紫波町上平沢新田遺跡の平安時代相当の焼失家屋1棟の路線境検出遺構を一部精査の上、それぞれ埋めもどし現地保存をした。

また、江釣子村猫谷地遺跡の古墳1基、紫波町墳館遺跡の墳墓1基、柳田館遺跡、盛岡市太田方八丁遺跡の一部は、施工方法や設計変更等によって可能な限りの保存策をとった。

昭和47年度に始まった調査は、昭和53年度の紫波町栗田Ⅲ遺跡を最後に終り、以後現在にい

たっている。なお、西根町以北の東北縦貫自動車関連遺跡は、鶴岩手県埋蔵文化財センターによって調査されることになり、昭和53年度から実施されている。

2 調査の方法について

(1) 調査対象範囲の選定は、遺跡の中で用地内および付帯施設を含む関連部分は、すべてを対象とした。更に、当該遺跡周辺の分布調査を可能な限り実施することにつとめ、調査地とそれをとりまく遺跡群との関連解釈の一助に資することとした。

(2) 調査対象全域に次のような地区設定をした。

①地区設定のための原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭の任意のものに定め、それと他の中心杭の2点間を見通す直線と、原点を通りこれに直交する直線を座標の基準線とした。

②南北の基準線をもとに、30mを1ブロックとし、北から順にA・B……の記号を付し、これを東西、南北に10等分し3m×3mのグリッドを設定、グリッド名は北から順にa-j、南北基準線から東方へ50・53・56……。西方へ03・06・09……。の記号を付し、これとブロック記号の組合せで表わした。

(3) 発掘および記録について

①グリッド設定に基づく平面発掘を原則とした。

②原則として3m×3mのグリッドで、調査地における遺物・遺構の分布状況を把握するため、「ちどり」状に人力による粗掘を行ない、遺構確認後に面的に拡大した。

③遺構が検出された場合、精査に当っては、2分法、4分法による平面発掘に留意し、遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することとした。

④遺物は、原則としてグリッドごとに取り上げ、遺跡記号・出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関係するものや、年代決定の資料となり得るものについては出土レベル、位置を平面図に記録し遺物番号を付して取り上げた。

⑤遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は実測図・遺構カード・フィールドノートを用い、全体の問題点、進行は調査日誌に記録した。

⑥写真記録は35mm版モノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主として用いた。

(4) 実測方法 ①発掘された遺構の実測は、原則として遺り方実測を用い、平板実測は補助にとどめた。②原図の縮尺は1/20に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて1/10縮尺を採用した。

(5) 関連科学との連携について 総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者、とくに自然科学系統の分野との連携に留意し、調査現場の実見と見解を求めることにつとめた。

3 整理について

整理にあたっては調査の性格（「緊急調査」と「記録保存」）を十分に考慮した。したがって可能な限り詳細な記録を作成することと、その公開を主目的とした。なおいわゆる「行政調査（とくに緊急調査）」と「学術調査」の異同を、その「現場」に投入された技術、方法の次元に還元して論ずるのは妥当ではない。「緊急調査」の「現場・調査」の位置づけについては、本課にも若干の反省がある。

(1) いわゆる「珍品主義」・「一番主義」を排し、得た資料のすべてを観察し、それぞれに応じた記録を作成することを旨とした。各調査地（遺跡）・調査資料の正当な評価の資料を提示するためであるし、それが「記録保存」の趣旨にも連なるからである。具体的には、①観察事項の正確な伝達 ②仮説の提示とその展開、吟味 ③新規の仮説 問題点の提起 ④新しい資料操作法の提示などを旨としたが、前述のように必ずしも十分には実施できなかった。

(2) 調査地はそれのみ単独での評価は避け、一定の地域内とりわけ他の遺跡との関係を重視して解釈・評価するように努めた。これは(1)の実践をめざすのみならず「遺構存在を遺跡成立の絶体条件視する見解」への反論のためにも必要であり、とりわけ埋蔵文化財保護にはきわめて重要な観点である。

(3) 調査時と同様に「関連諸科学・諸技術との連携」に留意した。(1)でのべた目的を満足させる為に必要不可欠であり、さらにはその保存処理・各種データの蓄積・その公開も本課に課せられた責務だからである。保存処理は木器・木材・柱脚類・鉄器類を中心に実施しているが、これも今後さらに新分野のものについて実施する必要がある。地質学的知見・教示は(2)などとの関連で、調査地および周辺の遺跡の立地・占地に関して、また遺物と出土層位（とくに火山灰層）との関連に留意して援用した。大規模調査地については航空写真に基づく作図を採用した。

(4) 以上の技術的基準・指標として『出土遺物の整理について』（昭和47年作成のうち一部修正）を作成し大略それに準拠した整理を実施した。細部は省略するが、大枠は①観察事項を正確に伝えるための作図法他の技術的部門、②文章表現上の留意点とからなる。後者については観察事項と解釈の峻別・不明事項の不明の理由の明示などが特に求められている。

(5) 本遺跡の調査資料の整理にあたっては、かなりの困難が存在した。その多くは基本的事項の不明確さに起因するものであった。その原因はあえて問わないが、それはたとえば遺構名の不統一（平面図・断面図・写真・遺物間）に象徴される。有意的関連をもつ四者を見出すまでにはかなりの時間を要した。それでもなおかつ地点特定不能の遺物が残った。

実測図・記録類の不備もまた目立った。座標の不記入・註記（解釈）の欠失・実測図そのものの欠失（とくに断面図等）等々である。欠失が集中する地点も存在した。実測図と写真のみ

が資料として残存したにすぎない。

遺物面では出土層位不記名のそれが多く、遺構の時期決定に悔いが残った。本文中にふれてあるように、土器投棄が行なわれた可能性のある遺構における遺物の出土層位は、極めて重要な意味をもつのである。また“表採”と記された資料がダンボール箱数十箱になっていることもまた疑問をもたせるものである。遺物包含層における遺物の採りあげ方にも若干の疑問がある。基本的には二次堆積層であろうが、出土遺物のとり扱いが不正確であったと思われる。

本報告書は以上の混乱を筆者なりに整理・統合した上で作成されたものであり、必ずしも当を得ないものが混じる可能性を禁じえない。整理者としてはいかんともしがたい。ことにも記録保存を前提とする調査にあたっては、如上の状況はあってはいけないことであろう。この種調査従事者への警鐘をこめてあえてふれておく。

なお、本遺跡の調査内容の概要については、2種の実績報告書に示されている。

①昭和48・49年度調査略報 東北縦貫自動車道関連遺跡 鳩岡崎遺跡 岩手県教育委員会

②昭和51年3月 鳩岡崎遺跡発掘調査報告書——第三次・第四次——岩手県教育委員会

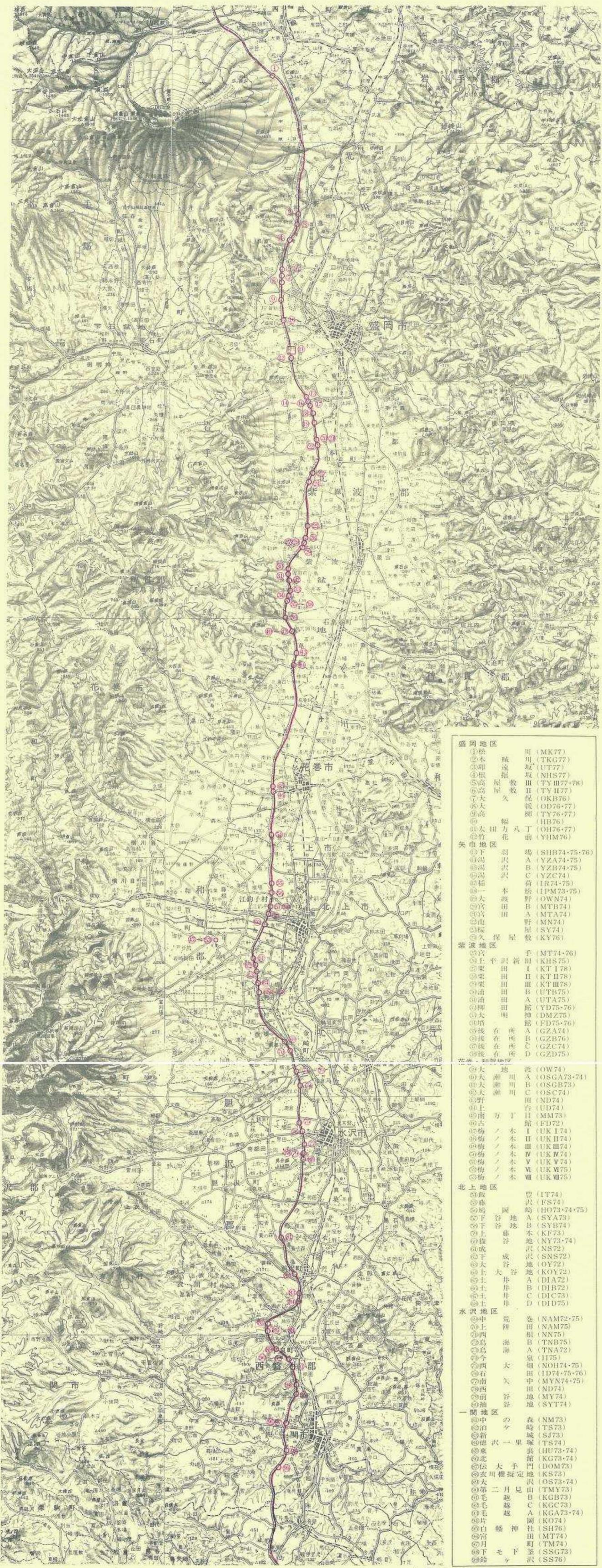
その他に本遺跡が引用された文献も数書ある。たとえば

「縄文時代検討会資料 テーマ……大型住居跡について 昭和56年」

その他にも類書が多いが、大型住居跡の時期についてなどの若干の諸点に関して混乱がある。本遺跡に関する最終見解は当然ながら本報告を以てする。

東北縦貫自動車道関係調査遺跡一覧

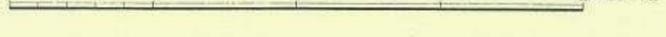
地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度					
盛岡	西根町 滝沢村 盛岡市	1	松木川	昭和52	和賀		51	梅ノ木 V	昭和49					
		2	松木川	52			52	梅ノ木 VI	50					
		3	卯遠坂	52			53	梅ノ木 VII	50					
		4	根掘坂	52			北上市	54	飯藤	豊沢	49			
		5	高屋敷	52・53				55	藤嶋	豊沢	49			
		6	高屋敷	52				56	嶋岡	豊沢	48・49・50			
		7	高屋敷	51				57	嶋岡	豊沢	48			
		8	高屋敷	51・52				58	下谷地	A	49			
		9	高屋敷	51・52				59	下谷地	B	48			
		10	高屋敷	51				60	上藤谷	木地	48・49			
		11	太田八丁	51・52				61	猫成	沢地	47			
		12	太田八丁	51				62	下成	沢地	47			
矢野	都南村 矢野町	13	下羽場	49・50・51	上市			63	大上	47				
		14	湯沢A	49・50				64	大上	大谷地	47			
		15	湯沢B	49・50				65	土井	A	47			
		16	湯沢C	49			66	土井	B	47				
		17	湯沢	49・50			67	土井	C	48				
		18	湯沢	48・50			68	土井	D	50				
		19	湯沢	49			水沢	金ヶ崎町	69	中上	荒餅	巻田	47・50	
		20	湯沢	49					70	西上	根田	50		
		21	湯沢	49					71	西上	根田	50		
		22	湯沢	49					72	西上	根田	50		
		23	湯沢	49					73	西上	根田	50		
		24	湯沢	51					74	西上	根田	50		
紫波	紫波町	25	宮平	49・51	水沢	水沢市			75	西上	大	泉畑	49・50	
		26	宮平	50					76	西上	大	泉畑	49・50・51	
		27	宮平	53					77	西上	大	泉畑	49・50	
		28	宮平	53					78	西上	大	泉畑	49	
		29	宮平	53					79	西上	大	泉畑	49	
		30	宮平	50					80	西上	大	泉畑	49	
		31	宮平	50			一関	胆沢町 前沢町	81	中泊	のヶ	森崎	48	
		32	宮平	50・51					82	中泊	のヶ	森崎	48	
		33	宮平	50					83	中泊	のヶ	森崎	48	
		34	宮平	50・51					84	中泊	のヶ	森崎	49	
		35	宮平	49					85	中泊	のヶ	森崎	48・49	
		36	宮平	51					86	中泊	のヶ	森崎	48・49	
37	宮平	49	87	中泊	のヶ	森崎			48					
38	宮平	50	88	中泊	のヶ	森崎			48					
花巻・和賀	石鳥谷町 花巻市 和賀町	39	大地	49	一関	平泉町			89	大第	二	月見	山	48・49
		40	大地	48・49					90	大第	二	月見	山	48
		41	大地	48					91	大第	二	月見	山	48
		42	大地	49					92	大第	二	月見	山	48
		43	大地	48			93	大第	二	月見	山	48		
		44	大地	49			94	大第	二	月見	山	48・49		
		45	大地	48			95	大第	二	月見	山	49		
		46	大地	48			96	大第	二	月見	山	51		
		47	大地	47			97	大第	二	月見	山	49		
		48	大地	49			98	大第	二	月見	山	49		
		49	大地	49			99	大第	二	月見	山	48		
		50	大地	49								51		



盛岡地区		川 (MK77)
①松本	川 (TKG77)	
②本	坂 (UT77)	
③根	坂 (NHS77)	
④高	Ⅲ (TYⅢ77-78)	
⑤高	Ⅱ (TYⅡ77)	
⑥大	保 (OKB76)	
⑦大	保 (OD76-77)	
⑧大	柳 (TY76-77)	
⑨大	(HB76)	
⑩太	八丁 (OH76-77)	
⑪竹	前 (YHM76)	
矢野地区		場 (SHB74-75-76)
⑫下	A (YZA74-75)	
⑬下	B (YZB74-75)	
⑭下	C (YZC74)	
⑮下	荷 (IR74-75)	
⑯大	松 (IPM73-75)	
⑰官	野 (OWN74)	
⑱官	B (MTB74)	
⑲南	A (MTA74)	
⑳久	野 (MN74)	
㉑久	屋 (SY74)	
㉒久	敷 (KY76)	
紫波地区		手 (MT74-76)
㉓上	田 (KHS75)	
㉔上	I (KTⅠ78)	
㉕上	II (KTⅡ78)	
㉖上	III (KTⅢ78)	
㉗上	B (UTB75)	
㉘上	A (UTA75)	
㉙上	館 (YD75-76)	
㉚上	神 (DM275)	
㉛上	館 (FD75-76)	
㉜上	A (GZA74)	
㉝上	B (GZB76)	
㉞上	C (GZC74)	
㉟上	D (GZD75)	
㊱大	渡 (OW74)	
㊲大	A (OSGA73-74)	
㊳大	B (OSGB73)	
㊴大	C (OSC74)	
㊵上	III (ND74)	
㊶上	台 (UD74)	
㊷上	H (MM73)	
㊸上	I (FD72)	
㊹上	館 (UKⅠ74)	
㊺上	II (UKⅡ74)	
㊻上	III (UKⅢ74)	
㊼上	IV (UKⅣ74)	
㊽上	V (UKⅤ74)	
㊾上	VI (UKⅥ75)	
㊿上	VII (UKⅦ75)	
北上地区		豊 (IT74)
①	沢 (FS74)	
②	崎 (HO73-74-75)	
③	A (SYA73)	
④	B (SYB74)	
⑤	木 (KF73)	
⑥	地 (NY73-74)	
⑦	沢 (NS72)	
⑧	沢 (SNS72)	
⑨	地 (OY72)	
⑩	地 (KOY72)	
⑪	A (DIA72)	
⑫	B (DIB72)	
⑬	C (DIC73)	
⑭	D (DID75)	
水沢地区		巻 (NAM72-75)
①	田 (NAM75)	
②	(NN75)	
③	B (TNB75)	
④	A (TNA72)	
⑤	(II75)	
⑥	(NOH74-75)	
⑦	(ID74-75-76)	
⑧	中 (MYN74-75)	
⑨	田 (ND74)	
⑩	地 (MY74)	
⑪	地 (SYT74)	
一関地区		森 (NM73)
①	崎 (TS73)	
②	(SJ73)	
③	(TS74)	
④	(HU73-74)	
⑤	(DG73-74)	
⑥	(DOM73)	
⑦	(KS73)	
⑧	(OS73-74)	
⑨	(TMY73)	
⑩	B (KGB73)	
⑪	C (KGC73)	
⑫	A (KGA73-74)	
⑬	(KO74)	
⑭	神 (SH76)	
⑮	田 (MT74)	
⑯	町 (TM74)	
⑰	下 (SSG73)	
⑱	ヶ (SS76)	

岩手県における東北縦貫自動車関係遺跡分布図

1:200,000



第1表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
23-2255	東方丁目	2297	杜島田	4154	本野田	4942	上ノ上ノ上	2244	高崎寺跡
2275	古 野	2301	中 田	4156	五倉丸跡	4943	上ノ上ノ上	2244	古家の遺跡
23-2292	鹿 野	2340	清水跡	4156	五倉丸跡	4951	本 野	2245	鹿 野
23-0251	藤 沢	2342	菅山丁	4159	本 野	4951	本 野	2245	下成沢
1243	藤 野	2374	菅山丁	4162	五倉丸丁	4954	新 山	2246	古野田
2254	下成沢ノ下	2411	村崎野段丘	4165	五倉丸古墳跡	4954	新 山	2246	古野田
44-2232	新ノ上ノ地	4495	川 邊	4208	杜 島	4954	新 山	2246	古野田
43-0241	上ノ地	1481	二ノ上ノ地	4208	高 野	74-0184	尾曾橋上	2273	尾 田
	藤谷地	2470-2270	野 田	4209	八幡古墳跡	1314	三ノ上	45-0340	藤 野
15-0351	渡 野	1337	尾 田	4211	藤 野	1404	上 野	45-0340	藤 野
0242	下成沢	1384	野 田	4212	二 野	75-0147	高野田	45-0340	藤 野
1141	大井野	2030	下成沢	4213	鹿 野	0136	高野ノノエニエ	45-0340	藤 野
2154	上ノ地	2163	高野ノ上野野段丘	4213	鹿 野	0221	高ノ上	45-0340	藤 野
2246	下成沢ノ下	2213	野 田	4218	尾 田	0221	高ノ上	45-0340	藤 野
40-0294	中野倉	2342	下 野	4241	高野田	1023	中成沢	45-0340	藤 野
1337	上野田	2480	藤野田	4247	新野田	1106	高野田	45-0340	藤 野
11	11) 縄文遺跡の遺跡	57-0096	二 野	42-1329	大倉野西	1142	高野田	45-0340	藤 野
44-0309	高野田	4186	藤野田	4146	六 野	1187	高野田	45-0340	藤 野
0213	尾 田	4314	藤野田	2191	藤 野	1274	高野田	45-0340	藤 野
0242	下成沢	5049	藤野田	4	藤 野	2040	高野田	45-0340	藤 野
1125	藤 野	4076	高野田	40-0007	高野田	2209	高野田	45-0340	藤 野
1126	藤野田	4094	高野田	4122	高野田	2312	高野田	45-0340	藤 野
1127	藤野田	4254	高野田	4123	高野田	2312	高野田	45-0340	藤 野
1128	藤野田	4312	高野田	4248	高野田	24-0255	高野田	45-0340	藤 野
1129	藤野田	4328	高野田	4304	高野田	74-0066	高野田	45-0340	藤 野
1130	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0084	高野田	45-0340	藤 野
1131	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0090	高野田	45-0340	藤 野
1132	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1133	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1134	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1135	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1136	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1137	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1138	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1139	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1140	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1141	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1142	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1143	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1144	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1145	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1146	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1147	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1148	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1149	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1150	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1151	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1152	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1153	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1154	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1155	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1156	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1157	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1158	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1159	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1160	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1161	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1162	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1163	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1164	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1165	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1166	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1167	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1168	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1169	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1170	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1171	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1172	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1173	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1174	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1175	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1176	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1177	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1178	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1179	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1180	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1181	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1182	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1183	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1184	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1185	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1186	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1187	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1188	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1189	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1190	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1191	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1192	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1193	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1194	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1195	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1196	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1197	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1198	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1199	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野
1200	藤野田	4328	高野田	4349	高野田	0136	高野田	45-0340	藤 野

第1部 遺跡周辺の歴史的環境 (第2図)

相去台地以北豊沢川以南を中心とする本地区の歴史的環境を通史的に概観する。まず旧石器時代(後期)遺跡の類例は少ないながらも徐々に蓄積されつつある。北上川西岸においては、下成沢・上大谷地・鳩岡崎、さらに可能性のあるものを出土している藤沢などの諸遺跡が存在し、岩宿Ⅰや磯山、星野Ⅳなどと類似性のある石核・剥片、あるいは舟底型石器等を出土している。下成沢からは他に局部磨製石斧も出土している。立地はいずれも中位の村崎野段丘の縁辺に集中する。現状での沢地形に関連するものが多い。東岸においては齊羽場が確実な例として存在し、他に出土層位未確認ではあるが鶴羽衣台・大名野等も可能性がある。齊羽場は北上川に臨む中位段丘に、鶴羽衣台は河岸低地(沖積地)を臨む低位段丘上に、大名野は高位段丘上にそれぞれ立地する。なお最後の大名野からは美しい局部磨製石斧が出土し、他に未確認ではあるが、ポイントも出土しているらしい。

縄文時代は遺跡数が増加する。まず北上川西岸で和賀川以北においては、中位段丘の縁辺や低位段丘上に形成された自然堤防などの微高地に、さらに低位段丘に沿って河岸低地上に形成された自然堤防等の微高地に立地する。最後者は晩期の遺跡立地に特有のものともいえ、九年橋の例が著名である。最前者の該当例が新平・鳩岡崎であり、比較的大規模なものが知られている。低位段丘縁辺あるいはその面上の微高地にのる例は猫谷地などがある。ここには少な

くとも貯蔵穴群が多数検出されており、同様に一定規模以上の集落が存在することも想定できる。以上三種の立地に時間的先後関係を適用しうるか否かは今後検討されるべき課題である。

和賀川以南においても大略同様の傾向が見られるが、和田のような北上川水系を臨む低位段丘縁辺への立地例も存在する。中位段丘縁辺上にのり東西方向に展開する丸子館・滝ノ沢・梅ノ木等の諸遺跡には、大型住居や墓域を備えたいし拠点集落も存在する。また相去台地上にはほぼ全域にわたり遺跡が分布するが、成沢川沿いの分布密度が比較的濃い。しかもそれらの多くは剝片・石器の出土量が多く、川から離れた遺跡との対照が明らかである。このことは成沢川沿いの各地点が原石の採取場・石器製作所として用いられたことが多かったことを示していよう。その中で比較的永続性をもった集落が形成されたのは中期前半と晩期後半に限定されそう、との見通しが与えられている。

北上川東岸における調査例は少ないが、調査例のほとんどが特異な事例を発見・報告している。立地は齊羽場は先と同様、樺山は高位段丘上の緩斜面上、八天・坊主峠は高位の周囲にはりついた中位段丘面上にそれぞれ立地する。樺山・八天などは墓域、大型住居、掘立柱建物等を有する特異な遺跡である。立地の特異例としては、河岸低地上の自然堤防に立地した五十瀬神社前遺跡がある。生業上の要請等が作用していたのであろうか。

本地域に分布する縄文時代遺跡には、該時代の集団領域の解明に資するであろう類例が数多い。今後は一定範囲を集団領域とした各集団の解明に努める必要がある。

弥生時代については、河岸低地上の自然堤防上への占地が顕著な他に、縄文晩期の遺跡立地と重複する低位段丘の縁辺などへの占地も知られている。前者の代表例はやや南方の例だが、沼の上・力石等である。この他に千貫石堤下Ⅱのように、奥羽山脈東麓の丘陵地等比較的高位部からも若干例が得られている。これらは時期差とともに生業の異同という観点も導入して検討する必要を要請するものである。

古墳時代末期から奈良時代前半については、北上川東岸は未詳である。したがって西岸を見ると、北上川支流水系毎に一定のまとまりをもって分布する。それらは集落跡と末期古墳(群)の形で存在する。豊沢川水系では熊堂古墳群を指標とする集団がある。この地域についての集落の様相は未詳である。低位段丘縁辺や自然堤防上に占地するのであろう。和賀川水系においては典型的な展開が見られ、猫谷地古墳群他と集落跡によってそれが明らかになっている。居住域と墓域の区別と隣接立地、両者内部の配置の共通性などが指摘されている。同様のことは胆沢川水系においても存在する。古墳時代と基本的に一致する立地を示し続けることに注目すべきであろう。

奈良時代後半から末期にかけても大体同様の占地といえるが、若干の新要素も加わる。即ち低位に加え中位段丘へも進出し、また北上川沿いの自然堤防上へも進出し始めることである。

前者の例は鳩岡崎・藤沢であり、後者は尻引しりびきであろう。前者の中位への進出は、胆沢扇状地いさわにおいては平安時代初期から顕著になる現象であり、本地域の変化の開始は一步早いといえる。なお猫谷地においては、同一地点において低位段丘→自然堤防→低位段丘という変遷をたどる。

平安時代には上記の傾向がさらに顕著になり、遺跡数・性格ともに豊富になる。まず本地域には平安時代初期に関係する窯跡が多い。藤沢・成田なりた・鳩岡崎西方などにその存在が確認乃至想定されている。この窯跡と大量の墨書土器や木簡を出土した下谷地等の存在を併せ考慮すると、この地域に該期の何らかの官衛的な組織の存在を想定すべきかとも思われ、それは郡衙的なものの可能性が強かろう。その点で駅家跡とされる新平なども再検討されるべきであろう。北上川河東の瀬谷子窯跡群・南方の胆沢城等と一体的に考察されねばならない。

相去遺跡は平安時代後半～末期にかけての重要な資料を提示している。窯業集落としての性格を見る場合には、その政治的背景にも目を向けねばならないし、9ヶ所以上からなる集落群として見る場合には母村・支村（本村・分村）的な観点をも導入する必要がある。

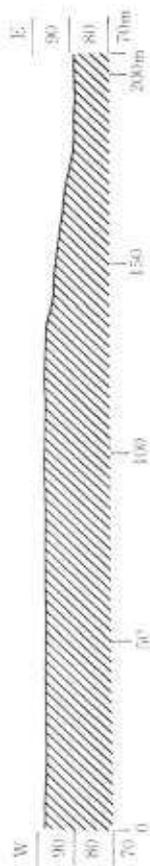
北上川東岸の当代の集落跡は未詳である。しかし、胡四王山こしやうざんなどは、残丘的なその立地もさることながら、その名称・出土遺物等に平安時代に関連する可能性を強く示している。また国見山寺院址群・立花毘沙門堂たちばな・万蔵寺ばんざうじ、さらには藤里毘沙門堂ふじり・黒石寺くろいし等々の平安時代関連の諸寺・諸仏が数多く存在する。これらの解釈は、西岸の諸遺跡と一体的・総合的に行なわれなければならない。

東岸の古代末期の様相は未詳だが、丹内山神社たにないさんの経塚あるいは最近注意された豊田城とよだじょう 擬定地内出土の舶載白磁四壺等の断片的資料などから出発せざるをえない。東岸自体の古代の諸遺跡の把握と同時に西岸の状況とも一体的に評価される必要があろう。その場合先にもふれたその背景の政治勢力の性格の考慮が必要なことはいうまでもない。政治・経済動向への十分な配慮は古墳時代以降必要とされてきた観点であるが、この時代はそれがさらに強力に要請されるのである。所謂在地政治勢力の展開である。

中世については両岸地方とも資料が少ない。文書以外では柵址・館址・寺院址・金石文などの調査が基礎的資料を提供しつつある。集落跡も徐々に検出されつつあり（鳥海・花巻古館とのもい）今後の進展がまたれる。

近世以降については城館の調査が進み、その分布・内部構造等が明らかになりつつある。とりわけ各種遺物類の検出と正当な資料化の努力は、当該期の物資流通の一端を明らかにするものであり、文書以外の諸分野の開拓の道をひらくものであろう。

最後に、本遺跡周辺は近世以降においては鳩岡崎村に該当する。その点では「鳩岡崎」は大字に該当することになり、小字名を付するという原則には合致しない。後に記す墳墓は鳩岡崎村の段階に対応するものであろう。



第4図 遺跡地形断面横式図

第2部 調査の結果

1. 遺跡の位置と立地

(第1・3・4図・図版1)

本遺跡は岩手県和賀郡江釣子村鳩岡崎第1地割に所在する。北上線江釣子駅より北東直線距離にして2.15kmの位置である。地形的には北側の藤沢川によって形成された谷地形と、南方に広く展げた金ヶ崎段丘とに挟まれた村崎野段丘の、長く東西にのびた先端部にあたる。標高は平均的な地点で86mで、下位の金ヶ崎段丘との比高は約8～9mである。遺跡の北・東・南限はそれぞれ自然地形によって区切られ、かつ傾斜しており、それ以上の延長は期待できないが、西方へはのびるものと考えられる。したがって本調査は遺跡全体の東半部についてのものであった可能性が強い。

本遺跡に検出された遺構の平面配置は、縄文時代には、住居跡は平坦部のより中央に近い部分に、貯蔵穴類は南縁部に沿ってそれぞれ存在する形をとり、古代は平坦部のより中央を住居跡が占め、近世以降は南縁部を用いた、というものになる。

本遺跡ののる村崎野段丘には数多くの大規模遺跡が立地する。西方の新平遺跡、東北方の藤沢遺跡等、縄文時代前期末～中期初頭、奈良時代末～平安時代の大遺跡が分布し、時代を問わず好立地であったことを示す。なお、それは旧石器時代後期についても該当したところであった。

本遺跡周辺の古代関連の遺跡の特徴を見ると、藤沢窯跡・下谷地遺跡等々、何らかの次元で政治的勢力を背景に考慮せざるをえないものがある。また本遺跡西隣の段丘崖斜面から窺切り・無調整の坏が重

ねられた状態で出土してもいる。以上のように本遺跡周辺の古代の遺跡の性格には官衙関連的なそれが目立といえる。郡衙あるいは駅家などの存在の想定もあながち無理とばかりはいえない。新平遺跡について既に駅家説が唱えられているが、筆者らも別の意味でそのような検討は必要と考える。

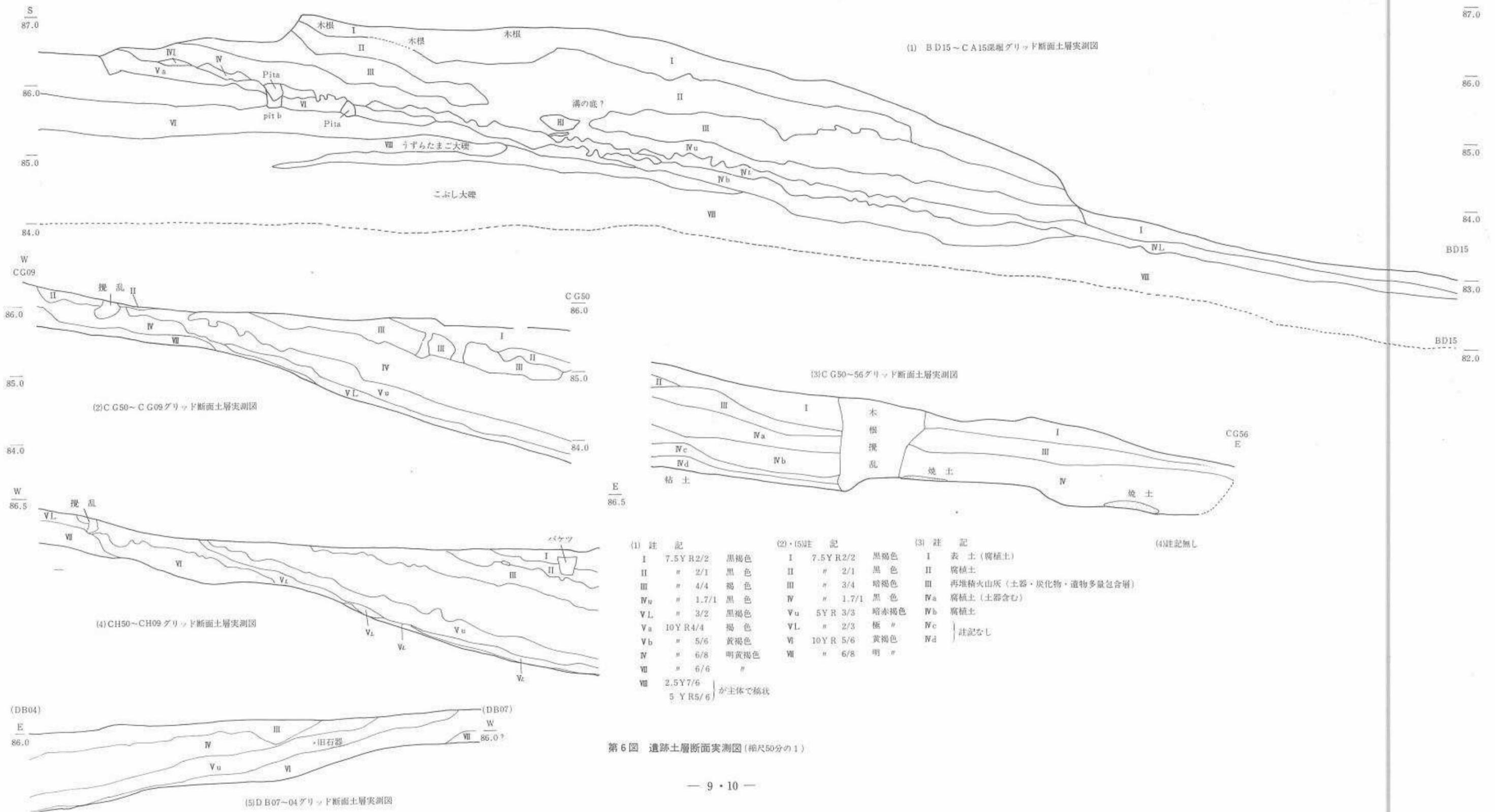
2. 遺跡の層序と土質 (第5・6図)

本遺跡は既述のように村崎野段丘上に立地する。中川久夫氏他によると、村崎野段丘は上位・下位の段丘に比較しもっとも緩傾斜で、比較的新鮮な面を保つ。基盤は飯豊礫層で、その上位に特徴的な黒沢尻火山灰がのる。なお村崎野面にのる火山灰はこれのみである。飯豊礫層は砂および粘土を基質とする礫層で、層厚10数mにおよび、各所に植物質薄層をはさむ。その最上部は、多くの地点で礫が疎となり、粘土乃至砂まじり粘土のみとなる。上位にのる黒沢尻火山灰の直下の部分は一般に暗茶褐色を呈する。黒沢尻火山灰は飯豊礫層に整合的にのり、本遺跡附近では2.5~3.0m前後の層厚をもつ。その主体部は黄灰色粗粒浮石(村崎野浮石)であり、上方に茶褐色火山灰を伴う。村崎野浮石は本遺跡附近では層厚1.7~1.8m前後となる。黒沢尻火山灰上半部の重鉱物組成はしそ輝石と磁鉄鉱、少量の角閃石・普通輝石を含み、下半部はしそ輝石・普通輝石・磁鉄鉱などを含む。なお村崎野浮石層には純度の高いイモゴライトが見出され、著名である。

本遺跡の層序は当然ながら上記に一致する。遺構検出面は黒沢尻火山灰上方の茶褐色火山灰層であり、場合によっては(二次的に削平などをうけた部分)村崎野浮石層中に見出される。構築面の確認例は無いが、最上位の耕作土中であろう。

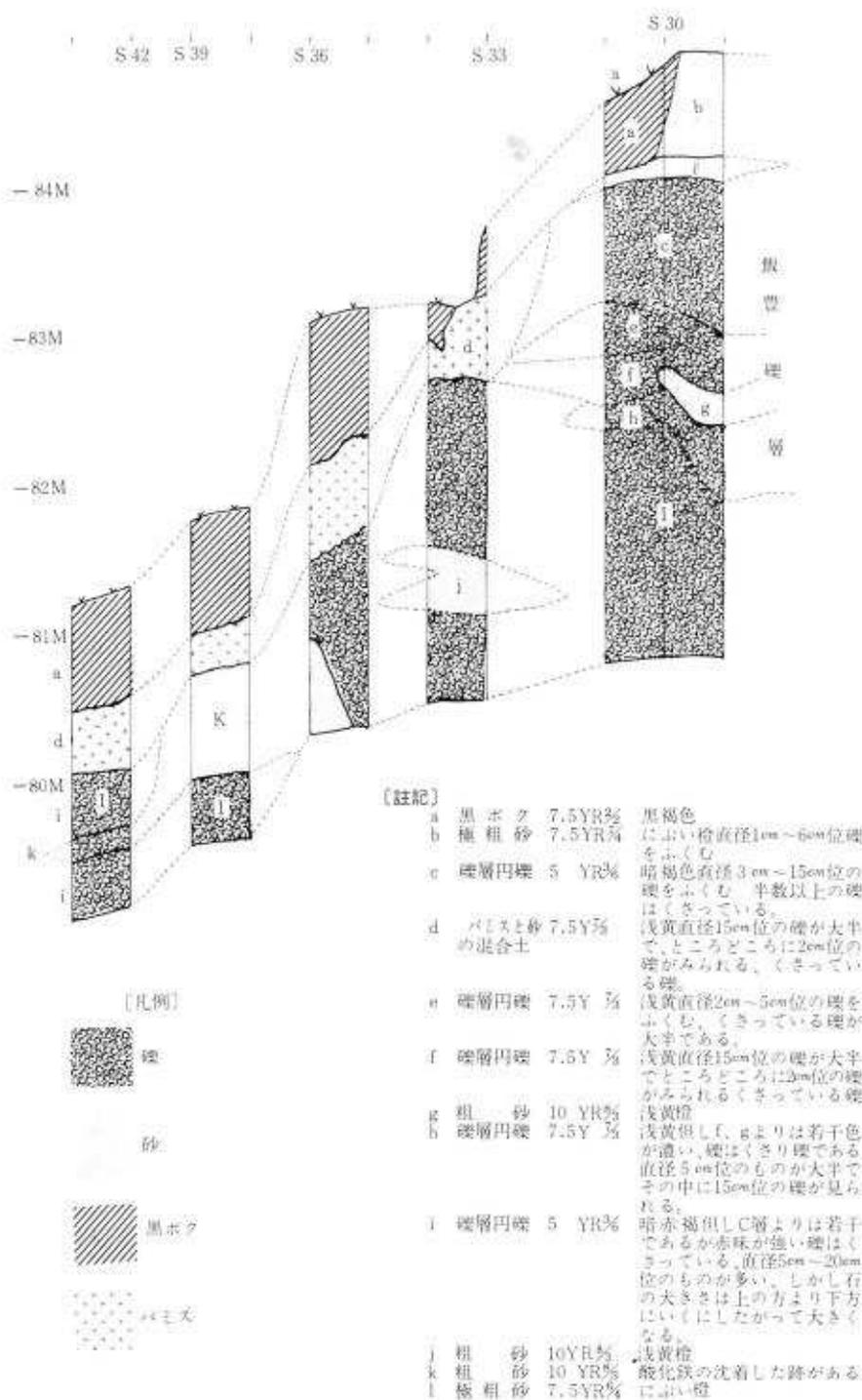
写真によるとK.T.a~cまでの表示が見られ、黒沢尻火山灰が何らかの基準により細分可能と思われるが、実測図その他の一切の記録を欠くので、詳細不明である。

なお本報告においては黒沢尻火山灰をK.T.、村崎野浮石をM.P.の略号で記している。さらに本遺跡周辺の地形区分・土層・堆積物等については、佐藤二郎氏に詳細な論述を依頼し、それを後に掲げたので参照されたい(第3部)。なお佐藤氏論文中の歴史時代以降の降下火山灰の評価と、遺物編に掲げた井上氏他の粉状バミスに関する論文中の評価とは一部くいちがいがあるが、筆者らにはその判定の能力が無い故に、両論をそのままに掲載してある。

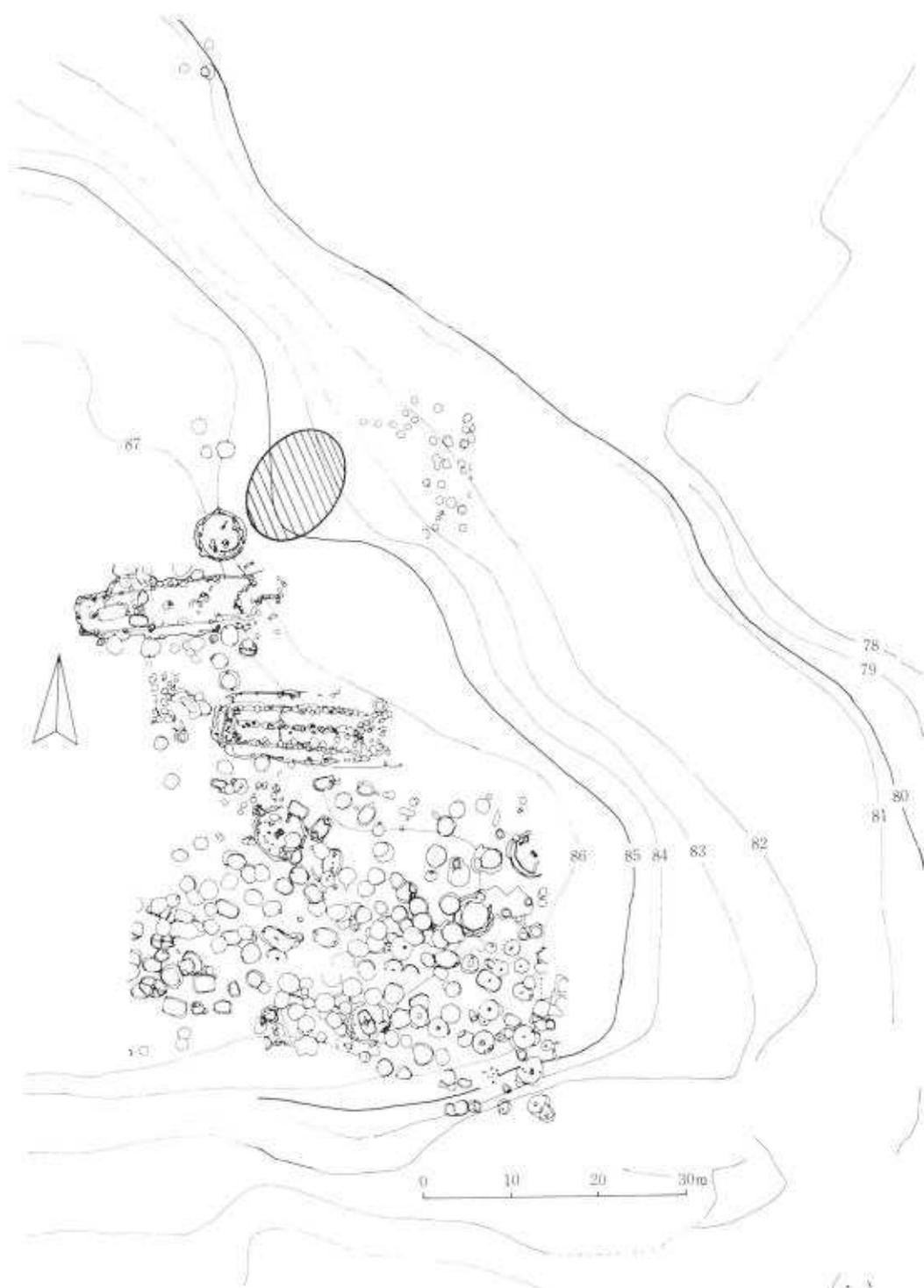


(1) 註記	(2)・(5)註記	(3) 註記	(4) 註記無し
I 7.5Y R2/2 黒褐色	I 7.5Y R2/2 黒褐色	I 表土(腐植土)	
II " 2/1 黒色	II " 2/1 黒色	II 腐植土	
III " 4/4 褐色	III " 3/4 暗褐色	III 再堆積火山灰(土器・炭化物・遺物多量包含層)	
IVu " 1.7/1 黒色	IV " 1.7/1 黒色	IVa 腐植土(土器含む)	
VL " 3/2 黒褐色	Vu 5Y R 3/3 暗赤褐色	IVb 腐植土	
Va 10Y R4/4 褐色	VL " 2/3 極 "	IVc } 註記なし	
Vb " 5/6 黄褐色	VI 10Y R 5/6 黄褐色	IVd }	
IV " 6/8 明黄褐色	VII " 6/8 明 "		
VII " 6/6 "			
VIII 2.5Y 7/6 } 5 Y R5/6 } が主体で腐状			

第6図 遺跡土層断面実測図(縮尺50分の1)



第5図 土層柱状図



第9圖 縄文時代遺構 古地状況模式図

3. 発見された遺構 (第7・8図)

調査の結果 ①縄文時代 ②古代 (奈良時代末・平安時代初期)、③近世以降、④時代不明、の各種遺構・遺物を検出した。ここではまず遺構についてのみ記す。①は竪穴住居跡・貯蔵穴様ピット類・遺物包含層・その他からなり、②は竪穴住居跡とピット類、③は墳丘上に営なまれた墳墓群、④は溝状各種からなる。以下時代順に記す。なお遺物としては、旧石器時代の資料も検出されている。

(A) 縄文時代 (第7図) 縄文時代の遺構類は(a)竪穴住居跡、(b)貯蔵穴を主とすると思われる諸ピット類、(c)遺物包含層、(d)石器製作址 (と称されたもの) (e)炉跡などからなる。最初にそれらの占地状況を概観しておく (第9図)。竪穴住居跡は舌状に東西方向にのびる段丘面の周縁の平坦部にのる。面の内部には未検出である。大型住居跡3棟は、すべて地形に沿った東西長の配置を示す。沢地形・段丘崖といった自然地形上の制約から、竪穴住居跡はこれ以上東方へはのびず、西方へそれが期待できることが知られる。既に記した如く、本調査は本来の遺跡の東半部に該当するものと思われる。諸ピット類は住居跡の周辺に存在するものもあるが、多くは平坦面の南縁部に沿ってベルト状に東西方向に密集して占地する。この種遺構の占地の一典型である。なお斜面裾部に占地するピット類の存在も興味深い (後述)。遺物包含層はCブロックの北東面斜面上に、二次堆積層として形成されている。

(a) 竪穴住居跡

CG15 住居跡 (第10~13図・図版3) [検出面] K.T. 層中か。[重複・増改築] いずれの註記も無く単期と思われる。[平面形・方向] 径5.9m 前後の円形に近い。周溝2を以て径を測ると4.0m 前後となる。[堆積土] 基本的には自然堆積と見做しうる。中~下位、床面上に多量に出土した遺物類は、註記は無いが、廃棄された可能性がある。[壁] 南北方向で観察するとほぼ垂直に立ち上がる。壁面上・直下にP.A~Cなどが存在する他の特記事項は無い。[柱穴等] P.1~43、P.A~Dなどが存在する。0.6m 前後のものにその可能性を認めると、P.2・4・6・9・11~15・18・20・21・23・26・27・32・35・40等々が該当する。それらの中には周溝に重複するものもあるし、周溝2に沿うものも多い。周溝1と重複するP.A~DととりわけA~Cと本遺構がもしも共伴関係にあるとすれば、より大規模な柱穴はより外周に存在することになり、そのあるものは建物中央部へ向かって傾斜することになる。[周溝] 2本ある。周溝1は壁直下にあり、径5.9×深さ0.3mで、一部を除きはほぼ全周する。周溝2は径4.0×深さ0.14m前後で、断続が激しい。何らの註記も無いので、2本の同時併存と見做しておく。[炉] 中央からやや東寄りに位置する石囲い炉である。燃焼部より一まわり大きめの掘り込みを設け、そこに礫を一重に埋置したらしい。[その他の施設] その記載は無い。大量の遺物類は廃棄の所産と見做しておく。[年代決定の遺物] 上記の遺物類である。大木7a式期と考えておく。

CJ24 住居跡（第13～17図 図版4～6）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕CI21 住居跡に後続しCJ27 住居跡に先行する。東半部においてその他の住居跡と重複する可能性をもつ。CJ30 f.p.他のピット類との先後関係は実測図を欠くものが多い。〔増改築〕住居跡平面全体にかかわるそれは記載されていないが、複数個で一箇所の柱穴が構成されているものが多いことから、部分的改修（柱のつくり替え）が頻繁に行なわれていたと考えられる。〔平面形・方向・規模〕長軸23m±×短軸5m±の東西長の長方形を呈す。東西端部が若干狭くなる。ただし東端部は、ピット類との重複のためか不明であるが、これ以上はあまりのびないと思われる。〔堆積土〕一応自然堆積と見做しておく。〔壁〕現状は傾斜面を形成する。現高0.4～0.17mなど変化に富む。壁面上・壁直下に柱穴等が配置される。〔床面〕概ね平坦である。断面図に“貼床、等の記載があるが、平面図等との関係は不明である。〔柱穴等〕別表のようなピット類を検出した。平面配置・規模からして、P. 1・4・5・9・10・18・20・28～30・34・48・59・72・89・98・133・134・159・195・255～257・282～284・288・289などに柱穴の可能性を認める。その配置は壁直下で周溝に重複し、南北方向に相互に対応するという単純なものである。133・134などのあり方は柱の部分的改築を反映するものと思われる。255～257、282～284、289などは、床面中央に若干寄っており、本住居跡の東端部を示すものとも考えられた。〔周溝〕不明の東壁以外に、巾0.1～0.4×深さ0.03～0.2程度のものが配される。その底面に小穴（凹み）が多く見られる。壁柱などの痕跡とも考えられる。〔炉〕確実なものとしては3基が存在し、いずれも浅い凹みを穿う地床炉である。焼土の周囲を炭化物がとり囲む。3基は一線にならぶ。東半に存在する焼土1・2は本遺構に伴わず、重複した遺構のもの可能性がある。〔貯蔵穴〕本遺構内に確実に伴う例は指摘できない。外周に存在するフラスコ・ピット群についてはその可能性がある。〔その他の施設〕東壁部分が不明なことは既にふれた。ここには周溝の痕跡も認められない。重複の結果の可能性が強いが、それらが本来的に存在しなかった可能性もまた強い。所謂“出入口。的な機能を想定すべきかとも思う。〔年代決定の資料〕埋土・床面他出土の土器類があり、大木6式を主体としている。

なお床面の硬さについての記載は無い。ちなみに柱穴配置を模式図として示した（第17図）。既にふれた如くの柱穴の作り替えが存在したと思われる部分は複数の破線で示した。

CI21 住居跡（第13・18図 図版7）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕CJ24 住居跡に先行する。また東半部では、詳細不明の遺構と重複する可能性もある。〔増改築〕重複のため詳細不明だが、柱穴と思われるものに重複ともとれる現象があるので、柱の改修が行なわれた可能性がある。

〔平面形・方向・規模〕重複のため詳細不明だが、長軸14m+ α ×短軸6.2m× α 程度の規模をもつ、東西長の長楕円形乃至長方形をなすと思われる。東西壁は不明である。〔堆積土〕別表のとおりであり一応自然堆積と見做しておく。〔壁〕傾斜して立ち上がる。北壁はCJ24 住居跡の

第2表 C121・C・J27・C・J24住居跡ピット類

特長 ㉑ 底面が一方に凸る。
 ㉒ 壁に中段をもつ。
 ㉓ 底面が段をもつ。
 ㉔ 底面不整。
 ㉕ 底面にもヒコト。
 ㉖ 底径>口径

No	長径	短径	概形	深さ	備考	No	長径	短径	概形	深さ	備考	No	長径	短径	概形	深さ	備考
1	0.59	0.38	不整形	0.78	㉑	35	0.45	0.33	不整形	0.04	壁面上?	㉗	0.35	0.23	楕円	0.32	周溝中?
2	0.40	0.3	"	0.10	㉒	36	0.17	0.08	楕円	0.04	周溝?	㉘	0.3 ±	0.22	"	0.28	"
3	0.25	0.25	正方	0.24	㉑、㉒、㉓	37	0.08	0.08	円	0.02	"	71	0.3	0.3	円	0.46	"、㉔
4	0.70 ±	0.40 ±	長楕円	0.40	㉑、周溝中?	38	0.15	0.08	楕円	0.03	"	72	0.62	0.57	不整形	0.95	"、斜行
5	0.48 ±	0.40 ±	"	0.70	㉑、㉒、"	39	0.3	0.23	長方	0.46	壁面上	73	0.65 ±	0.50 ±	長方?	0.17	"、72と重複?
6	0.2	0.2	円	0.23	周溝中?、㉑	40	0.45	0.4	円	0.08	壁外	74	0.42	0.31	楕円	0.17	"
7	0.27	0.2	楕円	0.28	"	㉑	0.46	0.33	不整形	0.64	周溝中?	75	0.72	0.60	円	0.67	㉑、㉒
8	0.3	0.3	円	0.18	㉑	㉑	0.15	0.08	楕円	0.3	周溝?	73	0.3 ±	0.3 ±	"	0.07	周溝中?
9	0.3	0.25	楕円	0.57	㉑、周溝中?	㉑	0.22	0.11	"	0.3	"	74	0.12 ±	0.1	"	0.11	73と重複
10	0.3	0.25	"	0.45	㉑、"、斜行	㉑	0.72	0.48	タル?	0.72	周溝中?	75	0.2	0.13	楕円	0.31	74と重複
11	0.13	0.13	円	0.24	㉑	㉑	0.72	0.42	不整形	0.31	"、㉑	76	0.24	0.24	円	0.34	"
12	0.2	0.12	楕円	0.09	㉑、㉒	㉑	0.5 ±	0.46	"	0.09	45と重複?	77	0.42	0.32	楕円	0.32	炭化物と重複?
13	0.2	0.15	"	0.48	㉑	47	0.27 ±	0.25	楕円?	0.24	周溝中?	78	0.2	0.18	円	0.34	礎土と重複?
14	0.15 ±	0.15 ±	"	0.1	周溝?	48	0.63 ±	0.47	"	0.25	"、47と重複?	79	0.22	0.6	楕円	0.14	㉑
15	0.1	0.06	"	0.2	"	㉑	0.22	0.17	"	0.38	㉑	80	0.2	0.3	円	0.24	"
16	0.3	0.22	"	0.2	"	㉑	0.27	0.2	"	0.43	㉑	81	0.26	0.18 ±	楕円?	0.31	82、84と重複?
17	0.5 ±	0.4	不整形	0.42	壁外?	㉑	0.55	0.5	正方?	0.16	49、50と重複?	82	0.4	0.27 ±	"	0.21	"
18	0.45	0.3 ±	楕円	0.13	壁面上、17と重複?	㉑	0.42	0.35	楕円	0.25	"	83	0.22	0.16	"	0.93	"
19	0.3 ±	0.15	長楕円	0.12	周溝?	㉑	0.12	0.1	円	0.22	55と重複?	84	0.3	0.2	"	0.32	㉑、㉒
20	0.52	0.4	楕円	0.43	周溝中?	54	0.16	0.12	楕円	0.26	"	85	0.34	0.28	"	0.19	"
21	0.33	0.33	円	0.16	"	㉑	0.45	0.35	不整形	0.31	㉑	86	0.37	0.37	円	0.18	㉑、㉒
22	0.25	0.22	"	0.17	㉑	60	0.42	0.32	楕円	0.21	㉑	87	0.32	0.32	"	0.16	"
23	0.13	0.1	楕円	0.08	周溝?	57	0.22	0.14	"	0.14	周溝?	84	0.26	0.2	楕円	0.11	周溝中?
24	0.08	0.08	円	0.03	"	58	0.16	0.12	"	0.36	周溝中?	85	0.5	0.42	"	0.19	周溝中?
25	0.5	0.5	圓形	0.46	㉑	59	0.5	0.5	円	0.06	㉑、㉒、㉓	86	0.16	0.14	"	0.23	"
26	0.48	0.40	楕円	0.08	"	60	0.4	0.08	長楕円	0.22	周溝?	87	0.22	0.22	正方?	0.66	"
27	0.2	0.17	"	0.4	2と重複?	61	0.42	0.08	"	0.27	"	88	0.2	0.13	楕円	0.69	"
28	0.35	0.27	長方	0.37	f-pと重複	㉑	0.44 ±	0.3 ±	"	0.52	㉑、㉒	89	1.01 ±	0.85	"	0.77	周溝中?
29	0.33	0.32	円	0.64	㉑、㉒、周溝中?	㉑	0.16	0.1	楕円	0.25	周溝?	90	0.4	0.35	"	0.42	89と重複?
30	0.3	0.3	不整形	0.5	壁面上?	㉑	0.55	0.45	正方	0.39	周溝中?	91	0.38	0.35	"	0.34	㉑
31	0.14	0.1	楕円	0.2	周溝中?	㉑	0.13	0.13	円	0.24	"	92	0.35	0.35	"	0.51	㉑
㉑	0.27	0.18	不整形	0.08	壁面上	㉑	0.55	0.5	"	0.3	"	93	0.22 ±	0.18	"	0.17	94と重複?
33	0.8	0.6	"	0.59	周溝中?、㉑	㉑	0.45	0.32	楕円	0.61	㉑、㉒	×94	0.55	0.48	楕円	0.40	"
34	0.2	0.15	楕円	0.28	33中、㉑斜行	88	0.3	0.3	円	0.4	"	×㉑	0.77	0.77	円	0.36	"

(概観・形状・状態、単位m、深さは床面から)

第3表 C I 21・C J 27・C J 24住居跡ピット類

No.	長径	短径	形状	深さ	備考	No.	長径	短径	形状	深さ	備考	No.	長径	短径	形状	深さ	備考
×96	0.55±	0.42	円	0.38	97と重複	132	0.25	0.25	正方形	0.55	98, 911	168	1.5	1.4	不整	0.62	幾上より0.05?
×97	0.77	0.6	楕円	0.6		133	0.63	0.45	楕円	0.65	134と重複?	169	0.37	0.32	楕円	0.57	
98	0.65	0.8	円	0.87	埋溝中?	134	0.9	0.6	楕円	0.99	埋溝中?	170	0.23	0.2	円	0.35	斜行
×99	0.6	0.55	円	0.25		135	0.2	0.17	円	0.25	円	171	0.22	0.47	円	0.71	円
100	0.12	0.07	円	0.22	埋溝中?	136	0.36	0.08	円	0.26	埋溝?	172	0.15±	0.22	円	0.25	173と重複?
101	0.36	0.13	夕〇?	0.15	円	137	0.12	0.06	円	0.25	円	173	0.17	0.22	楕円	0.49	174と重複?
102	0.16	0.09	楕円	0.14		138	0.08	0.08	円	0.25	円	174	0.15±	0.15±	円	0.39	175と重複?
103	0.15	0.1±	円	変形	×139	0.18	0.13	楕円	0.3		175	0.25±	0.22	円	0.08		
104	0.18	0.1	円	変形	×140	0.22	0.18	円	0.3		176	0.37	0.37	円	0.62	埋分佈1	
99	0.25	0.2±	円	0.13	106と重複	×141	0.35	0.27	楕円	0.69	142と重複?	177	0.2	0.18	楕円	0.45	90, 斜行
98	0.26	0.18	楕円	0.35	9	×142	0.4	0.4	円	0.09	144と重複?	178	0.57	0.28	長楕円	0.35	9
96	0.3±	0.27	円	0.07	106と重複?	×143	0.28	0.28	円	0.5		179	0.3	0.22	楕円	0.35	9, 斜行
108	0.17	0.17	円	0.13		×144	0.42	0.28	楕円	0.79	145と重複	180	0.17±	0.28	円	0.16	181と重複?
109	0.2±	0.2	円	0.17		×145	0.4±	0.28	円	0.51	146と重複	181	0.38	0.26	楕円	0.37	
110	0.38	0.3	不整円	0.36	6	×146	0.32	0.3	円	0.82		182	0.23	0.23	円	0.51	
111	0.2	0.15	楕円	0.53	9, 911	×147	0.13	0.13	円	0.92	9, 911	183	0.2	0.14	楕円	0.04	
112	0.27	0.27	円	0.40	9, 9	×148	0.45	0.3	楕円	0.81	9, 埋溝中?	184	0.23	0.2	円	0.05	9
113	0.17	0.17	円	0.53	9, 9	×149	0.33	0.3	円	0.2	埋溝中?	185	0.33	0.32	円	0.26	
114	0.45	0.35±	楕円	0.48	113と重複	×150	0.5	0.5	不整円	0.74	埋溝中?	186	0.22	0.18	円	0.27	
115	0.15	0.15	円	0.33	9, 911	×151	0.32	0.28	円	0.49	埋溝上?	187	0.5±	0.35	不整	0.32	9
116	0.35	0.22	長方	0.11	9	152	0.18	0.08	楕円	0.17	埋溝?	188	0.26	0.28	円	0.24	
117	0.17	0.12	楕円	0.26		153	0.14	0.06	円	0.12	円	189	0.17	0.13	楕円	0.28	
118	0.26	0.18	円	0.08	9	154	0.18	0.08	円	0.09	円	190	0.18	0.18	円	0.37	
119	0.2	0.17	円	0.07	9	155	0.3±	0.1	円	0.09	円	191	0.13	0.1	円	0.34	埋溝中
120	0.42±	0.3	円	0.14	9, 9	156	0.36	0.28	楕円	0.27		192	0.37	0.28	長方	0.43	9, 9
121	0.23	0.18	円	変形	157	0.32	0.24	円	0.25		193	0.3±	0.47±	円	0.28	9	
122	0.38	0.26	長方	0.75	123と重複?	158	0.3±	0.12	円	0.41	埋溝?	194	0.7	0.17	円	0.48	9
123	0.55	0.35±	円	0.38		159	1.0±	0.8	不整方	0.65	埋溝中?	195	0.85	0.85	円	1.12	9
95	0.25±	0.5	円	0.25	125と重複?	160	0.5	0.4	楕円	0.58	159と重複, 同?	196	0.16	0.16	不整円	0.23	197と重複
96	0.52	0.45	楕円	0.57	9	161	0.2	0.2	円	0.38	9	197	0.15±	0.13	円	0.2	9, 斜行
128	0.6	0.4	円	0.24	9, 埋物と重複?	162	0.25	0.16	夕〇?	0.37		×198	0.2	0.14	楕円	0.19	
127	0.25±	0.3	円?	0.19	126と重複?	163	0.16	0.16	円	変形		×199	0.36	0.38	円?	0.68	
126	0.23	0.23	円?	0.25		164	0.45	0.25	不整円	0.14	9, 斜行	×200	0.5	0.35±	円?	0.57	201と重複?
129	0.2	0.13	楕円	0.3		165			長楕円	0.22	同?	×201	0.36	0.26	楕円	0.49	9
130	0.23	0.17	楕円	0.28		166	0.32	0.42	長楕円	0.49	同?	×202	0.17	0.1	円	0.18	埋溝下
131	0.32	0.13	円	0.17	9	167				0.37		×203	0.2	0.06	円	0.03	9

第4表 C121・C J 27・C J 24住居跡ビット類

No.	長さ	知径	機	軸	軸	考	No.	長さ	知径	機	軸	軸	考	No.	長さ	知径	機	軸	軸	考
204	0.22	0.2	白	0.4	壁面1		240	0.08	0.08	円	0.09	出溝?		276	0.13	0.13	円	0.15		
205	0.27	0.17	格円	記載なし			241	0.16	0.14	格円	0.1	0		277	0.15	0.15	0	0.41	a	
206	0.10	0.00	0	0.14	出溝?		242	0.13	0.13	円	0.16	0		277	0.68	0.4	0	0.11	ヒートコア?	
207	0.4	0.00	0	0.09	0		243	0.15	0.14	0	0.24	0		278	0.32	0.32	0	0.47		
208	0.17	0.08	0	0.17	0		244	0.16	0.12	0	記載なし			279	0.16	0.1	0	0.24		
209	0.12	0.12	円	0.19	0		245	0.12	0.12	0	0.48	壁面1?		280	0.4	0.25	0	0.34	b	
210	0.2	0.13	格円	0.11	0.41円,	0	246	0.45	0.36	五角	0.35	0		281	0.34	0.34	0	0.32	a, b	
211	0.17	0.12	0	0.04	出溝?		247	0.22	0.16	格円	0.17	0		282	0.3	0.22	格円	0.45	283と同?	
212	0.27	0.144	0	0.2	213と重複?		248	0.42	0.22	0	0.1	0		283	0.4	0.3	0	0.62	284と同?	
213	0.24	0.17	0	0.24	0		249	0.58	0.52	0	0.64	出溝中?		284	0.4	0.4	円	0.80	282, 283と同?	
214	0.25	0.14	0	記載なし			250	0.24	0.16	0	0.13	0		285	0.4	0.4	不整石	0.56	286と重複?	
215	0.36	0.26	0	0.14	0		251	0.6	0.6	0	0.11	252と同?		286	0.25	0.2	0	0.27		
216	0.47	0.30	0	0.18	0		252	0.45	0.32	タテ?	0.44	0		287	0.26	0.26	円	0.45	b	
217	0.25	0.25	円	0.26	0		253	0.3	0.22	格円	0.26	出溝中?		288	0.2	0.2	0	記載なし	289と重複?	
218	0.22	0.22	0	0.22	0		254	0.16	0.16	円	0.23	0, a, b		289	0.7	0.6	格円	0.99		
219	0.2	0.17	0	0.27	0		255	0.42	0.42	正方	0.68	256と重複と同?		290	0.24	0.24	円	0.35		
220	0.32	0.32	0	記載なし			256	1.4	0.55	タテ?	0.69	出溝中?		291	0.25	0.2	格円	0.45	a	斜行
221	0.33	0.2	格円	0.33	0		257	0.18	0.18	円	0.5	258と重複と同?		292	0.16	0.16	円	0.26		
222	0.12	0.12	円	0.07	0		258	0.14	0.14	0	記載なし			293	0.35	0.35	0	0.26		
223	0.1	0.26	格円	0.28	0		259	0.18	0.18	0	0.12	0		294	0.24	0.18	格円	0.11		
224	0.22	0.2	0	0.35	0		260	0.26	0.16	格円	0.66	0		295	0.23	0.2	0	0.29		
225	0.2	0.2	円?	0.27	226と重複?		261	0.12	0.12	円	記載なし			296	0.32	0.16	0	0.57	297と重複?	
226	0.3	0.7	格円?	0.42	0		262	0.12	0.12	0	記載なし			297	0.46	0.3	0	記載なし		
227	0.6	0.4	0	0.61	0.4は2層?		263	0.23	0.2	格円	0.45	263と重複?		298	0.26	0.26	円	0.26		
228	0.45	0.3	0	0.47	0.1と3層?		264	0.17	0.17	円	0.29	265と重複?		299	0.33	0.26	0	0.69	300と重複?	
229	0.2	0.13	0	記載なし			265	0.3	0.3	円	0.24	0		300	0.3	0.25	0	0.62		
230	0.3	0.22	0	0.22	0		266	0.35	0.25	格円	0.31	0		301	0.24	0.24	0	0.5	299, 300と同?	
231	0.22	0.18	0	記載なし			267	0.36	0.24	0	0.41	0		302	0.4	0.26	格円	0.48	301個と同?	
232	0.4	0.4	円	0.24	233と重複?		268	0.17	0.17	円	0.42	0		303	0.25	0.25	円	0.3	a	
233	0.29	0.24	格円	記載なし	0		269	0.3	0.3	0	0.28	0		304	0.18	0.18	0	0.19		
234	0.4	0.23	0	0	0		270	0.2	0.2	0	0.18	0		305	0.32	0.22	格円	0.2		
235	0.4	0.26	不整石	0	0		271	0.26	0.2	格円	0.37	0		306	0.25	0.22	0	0.37		
236	0.25	0.18	格円	0.33	0		272	0.2	0.19	0	0.25	0		307	0.65	0.52	0	0.35	b	
237	0.23	0.17	0	記載なし			273	0.2	0.16	0	記載なし			308	0.2	0.14	0	0.26		
238	0.17	0.17	円	0.3	0		274	0.15	0.14	円	0.43	0		309	0.3	0.25	0	0.23	a	
239	0.08	0.08	0	0.09	出溝?		275	0.27	0.16	格円	0.44	0		310	0.25	0.25	円	0.37	a	斜行

第5表 C-121・C-J27・C-J21住居跡ピット類

No.	長さ	切径	形状	深さ	備考	No.	長さ	切径	形状	深さ	備考
311	0.38	0.38	円	0.32	⑤	348	0.25	0.25	円	0.46	④
312	0.18	0.18	"	0.34		349	0.23	0.13	楕円	0.51	①
313	0.18	0.18	"	0.46		350	0.13	0.08	"	0.15	
314	0.22	0.18	楕円	0.16		351	0.11	0.11	円	0.1	
×315	0.05	0.32	不整形	0.35	⑥	×352	0.37	0.37	円	0.42	
316	0.37	0.2	楕円	0.3		353	0.24	0.22	楕円	0.68	⑥, 斜行
318	0.25	0.25	円	0.25	⑥	354	0.28	0.28	円	0.38	
319	0.18	0.15	楕円	0.09		355	0.32	0.32	"	0.40	
320	0.3	0.25	"	0.29	④	356	0.24	0.18	楕円	0.17	
321	0.6	0.44	五角形	0.64	④	357	0.25	0.25	円	0.5	
322	0.33	0.24	楕円	0.40	⑤, 斜行	358	0.28	0.25	楕円	0.68	
323	0.2	0.17	"	0.33		359	0.4	0.3	"	0.63	④
324	0.23	0.18	"	0.18		360	0.26	0.26	円	0.24	
325	0.3	0.24	"	0.4		361	0.52	0.33	楕円	0.23	⑥
326	0.3	0.3	円	0.4	④	362	0.28	0.28	円	0.42	④, 斜行
327	0.22	0.18	楕円	0.14		363	0.55	0.6	"	0.22	
328	0.25	0.25	円	0.6		364	0.52	0.38	楕円	記載なし	?
329	0.88	0.33	楕円	0.4	⑥	×365	0.5	0.34	"	0.48	⑥
330	0.22	0.22	円	0.22		366	0.43	0.4	"	0.53	
331	0.46	0.38	楕円	0.58		367	0.42	0.36	"	0.22	
332	0.22	0.16	"	0.32	⑥, 斜行	368	0.4 ±	0.4	"	0.36	369と同-
333	0.22	0.17	"	0.47		369	0.38 ±	0.25 ±	"	0.48	
334	0.4	0.4	円	0.58	⑥	370	0.55	0.55	方	0.16	
335	0.28	0.17	楕円	0.23		371	0.63	0.3	楕円	0.1	
336	0.26	0.22	"	0.29	337と同-?	372	0.3	0.3	円	0.53	④, 斜行
337	0.26	0.18	"	0.30		373	0.35	0.35	"	0.68	⑥
338	0.5	0.28	長方	0.5	⑥, ⑤, 斜行	374	0.26	0.14	楕円	0.31	
339	0.4	0.32	不整形	0.52		375	0.46	0.4	"	0.8	⑥
340	0.24	0.23	"	0.37		376	0.26	0.19	"	0.2	
341	0.2	0.15	楕円	0.37	⑥, 斜行	377	0.3	0.25	"	0.39	
342	0.08	0.08	円	0.28	345と同-?	378	0.33	0.29	"	0.2	
343	0.1	0.1	"	0.19	"	379	0.32	0.32	円	0.16	
344	0.18	0.18	"	記載なし	"	380	0.34	0.29	楕円	0.24	⑤
345	0.95	0.35	楕円	0.28		381	0.23	0.14	"	0.11	
346	0.18	0.18	"	0.35	347と同-?	382	0.29	0.21	"	0.18	
×347	0.27	0.22	不整形	0.48		383	0.29	0.29	三角	0.17	

それと共有関係にあるらしい。〔床面〕部分的にしか残存せず詳細不明。遺物が密に貼りついていた。〔柱穴等〕 P. 85・96・97・99・141・142・144～146・148～151・157・160・199～201・246・249・253・296・297・299～302・311・347・352・365などにその可能性がある。いずれも壁直下で、周溝中に位置する。南北辺に、相互に対応する位置に配される。CJ24 住居跡のそれよりは小規模でありかつ対応関係も若干乱れている。各個に重複的現象が見られ、改修の措置を思わせるものがある。(第18図)〔周溝〕南壁沿いの残存が良好で、巾0.15×深さ0.04～0.12m前後の規模である。ここにも細かい凹部を伴い、壁柱様のものの痕跡とも考えられる。〔炉〕確実に本遺構に伴うのは不明である。〔貯蔵穴〕不明である。〔その他の施設〕東壁が不明な点について、CJ24 住居跡と同様に、*出入口様の存在を想定することもできる。〔年代決定の資料〕床面出土の土器を用いると、大木6式期かそれ以降にあたる可能性がある。

CJ27 住居跡 (第19・20図 図版7)〔検出面〕K.T. 層中。〔重複〕CJ24 住居跡に後続する。その周辺のプラスチック群にも概ね後続しよう。〔増改築〕貼床が二面記載されており、その程度の改築は行なわれたのであろう。〔平面形・規模〕重複で南半の壁は不明だが、大略径7m前後の円形をなそう。〔堆積土〕別表のとおりで、自然堆積と見做した。〔壁〕傾斜して立ち上がり、現高は0.26～0.12m程度で均一ではない。〔床面〕貼床が2面あり、以下には面別に記す。

貼床1〔床面〕大略平坦で、焼土3、若干の高まり2、土器類、ピット類が存在した。〔柱穴等〕P. 1～12までが、いずれも壁直下にある。深さをとるとP. 1・3・5・6・9・10などに支柱穴の可能性がある。〔周溝〕記載は無い。〔炉〕1～3の焼土集積部があるが、焼土1にその可能性が高い。焼土1はP. 75と正確に重複する。したがって焼土1は掘り込みを伴う地床炉の可能性をもつ。〔貯蔵穴〕その記載は無い。〔その他の施設〕床面上に礫・若干の高まりがあるが、性格不明である。〔年代決定の資料〕床面上の若干の土器片であり、大木8a式期か、それ以降である。

貼床2〔床面〕大略平坦で、焼土1、ピット・礫・土器等が分布する。〔柱穴等〕P. 1～22があるが、深さからみてP. 1～4・7・9・18～22などに支柱穴の可能性がある。なお重複するピットもあり、部分的改修の事実も思わせる。〔周溝〕北東部にのみ認められ、巾0.25×深さ0.3m程度の規模であり、ここにも同様に小さな凹みがあり、壁柱様のものを思わせる。〔炉〕焼土は存在するが、性格不明である。〔貯蔵穴〕記載は無い。〔その他の施設〕西南部に礫が認められるが、性格不明である。〔年代決定の資料〕床面出土の土器類であり、大木8a式期かそれ以降の可能性をもつ。

ちなみに、完掘時の状況(CJ24 住居跡他も完掘した時点)を基礎にすると、第20図のような柱穴配置も考えられる。壁際の柱穴配置が顕著であり、同期の類例と比較すると若干特徴的である。

DE18 住居跡（第21～25図・図版8～10）〔検出面〕K.T.層中。〔重複〕CI21・DE18 溝状遺構、DD18 住居跡に先行する。DG12 f.p.とは実測図を欠く。〔増改築〕周溝からみて、最低3～4回の拡張が行なわれている。拡張方向は長軸方向（西方）に一致するが、一部南方への拡張の可能性もある。〔平面形・構造・規模〕東西長の長楕円形乃至隅丸長方形に近い。最終的規模は、外部構造で測ると長軸23m ±×短軸8.5m、内部構造のそれは21m ±×5mである。本遺構は二重構造をもち、所謂ベッド状施設部を南北沿いに備えた形式のものである。〔堆積土〕別表のとおりであるが、一応自然堆積と見做しておく。〔壁〕現状は傾斜して立ち上がる。〔床面〕既述のように二種の部分からなる。①ベッド状施設部…大略平坦で、小ピット類が分布する。②内部構造部…大略平坦で、炉・ピット群が分布する。またベッド状施設部沿いに大量の炭化物・焼土が分布する。これは床面中央部に配された炉からの“かき出し。的作業の結果とも考えられよう。全体的に極めて硬質の床面である。〔柱穴等〕①ベッド状施設部…壁際に小ピットが分布し、対応関係をもつかのようなものもある。したがってこれらのあるものは、時間差をもつ壁材関連（壁柱など）のものである可能性をもつ。②内部構造部…①との境界部に設けられる。拡張に対応する柱穴配置の変遷が想定される。なお想定指標は、ピットの深さと平面配置の両者とした。重複関係を明示した実測図類を欠く故である。それによると南北壁に相互に対応関係にある配置を示す。西辺中央のピットは他よりも浅いが、所謂“棟持柱。的な機能をもつ可能性がある。

〔周溝〕外部構造（ベッド状施設）の壁際と、内部構造の壁際の両者に設けられる。前者は断続的であり、後者はほぼ全周する。両者とも東辺については不明である。〔炉〕内部構造部の床面上に、炉1～14までのものがある。いずれも浅い凹みを伴う所謂地床炉である。これらがすべて同時存在か否かについては記載がないが一応同時存在と見做しておく。ただし平面配置を見ると一直線上にならず、南北方向に若干の出入がある点は、時間の差の考えを導入すべきことを示唆するものとも見える。〔その他の施設〕明確な貯蔵穴は指摘できない。DE101やDG12 f.p.などとの関係も不明である。〔その他の施設〕東端部が不明瞭である点は、“出入口様。の施設の存在を示唆するものともとれる。〔年代決定の資料〕床面上他に大量に投棄された土器類であり、大木7 a式期かその前後と考えられる。

ちなみに拡張状況・柱穴第等配置他を模式的に示した（第25図）。基本的には長軸（東西）方向への拡張であり、棟持柱的な柱穴もきちんと対応関係を保っている。複数線は柱穴の作り替えが存在したと思われる部分を示す。

DI12 住居跡（第26図・図版11）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕CI21 溝状遺構に先行、DJ12 f.p.1、DJ09 f.p.、EA09 f.p.、DI09 f.p.等とは実測図を欠く。〔増改築〕記載が無い。〔平面形・規模〕残存状況不良のため正確は期しがたいが、長径6.5×短径6.1m前後の円形基調と考えら

